

バレーボールのラリーポイント制導入を考える

商学部 3年 1199208m 服部公平

社会学部 3年 4199213z 宮脇康徳

1. はじめに

最近になってやっと定着してきた感のある「ラリーポイント制」。ラリーポイントだけでなく「ネットイン」や「リベロ」などルールが非常に流動的であるが、この中でも特にラリーポイント制は「試合時間の短縮を図る」という意味で画期的なものだといえる。このルール改正についてインターネット上でもいたるところで議論されているが、これは本当にバレー界にとってプラスになったのかを考察していきたいと思う。

2. ラリーポイント制のメリット、デメリット

まず日本バレーボール協会によるラリーポイント制を導入した理由は以下の通りである。

- (1) 試合時間が長すぎ、1試合ならともかく連日ゲームの場合、選手の疲労が激しく健康管理上の問題がある。
- (2) 試合時間長短の幅がありすぎ、試合の運営上も第2ゲーム以後、開始時間が不明瞭で次のゲームへの対応が難しい。
- (3) テレビ放映上も放送枠がとりにくく、なんとか90分から120分で1ゲームが終わるように工夫して欲しいとの強い要望がマスコミ関係者からあった。
- (4) ルールを知らない人にとって、サーブ権によって得点が入ったり入らなかったりする方式は理解しがたい。

このことを踏まえながらいろいろな視点からメリット、デメリットを挙げていこうと思う。

a) 選手にとって...

バレー協会が言っているように健康管理上の問題を軽減できるこのルール改正はメリットになるといえる。

b) 運営者にとって...

試合時間のばらつきが少なくなり、運営がしやすくなったという点でメリットは大きい。

c) 試合を見る人(バレーファン)にとって...

メリット：試合が間延びせず、緊迫感がある

波乱・番狂わせが起こりやすい

デメリット：大差の逆転劇が起こらなくなる

セットの早い段階で、結果の予想がついてしまう

ラリーポイントでは 20 対 23 からの逆転はほぼ不可能である、という定説がある。実際の世界大会でもこの点数からの逆転はほとんどないらしい。このように終盤でのドラマチックな逆転が起こりにくくなったというのはデメリットになる。これとは逆に、強くてもミスは多いチーム（例えばキューバ女子）が今まで格下だったチームに負けるというような波乱が起きやすくなって、見るほうも期待感が持てるというのはメリットになるだろう。

また上記ルール改正の理由の中で(3)、(4)はバレーボールを見る人のためのルール改正といえる。つまりこのルール改正はバレーボールをより見やすく、わかりやすいものにすることによってバレー人気を回復するための戦略なのではないかと考えた。もし実際にルール改正によってバレー人気回復しているのだとしたらそれはバレー界に計り知れない利益をもたらすことになる。そこで私たちは、ラリーポイント制がバレーボールの人気回復につながっているのかということについて調査してみた。

3. 分析

バレーボールの人気回復を測る指標として、私たちは低年齢層の競技人口をとりあげることにした。バレーボールの人気回復は、競技人口の増加・裾野の拡大によってなされると思ったためである。ラリーポイント制が導入されたのは 1999 年度のワールドカップからということなので、そこに注目して見ていくことにしたい。

表 1、2 は近年行われた世界大会の日本戦の視聴率、放映時間の平均値を示したものである。表 2 を見ると 2001 年のグラチャンでは男子、女子ともに明らかに放映時間は短くなっている。これは明らかにラリーポイントが導入されて試合時間が短縮されたためであろう。このことから、放送枠がとりにくいというテレビ局の悩みは解決されたといえる。

しかし表 1 の視聴率を見てみると、劇的な変化は見られないのである。女子に関しては新ルール採用後に微増しているが、男子に関して言うと視聴率は下がっているのである。

(表 1)

平均視聴率

	男子	女子
2001 年	15.2%	18.6%
1999 年	16.0%	17.1%
1998 年	15.9%	15.4%

(表 2)

平均放映時間

	男子	女子
2001 年	86 分	86 分
1999 年	127 分	119 分
1998 年	127 分	110 分

競技人口の推移

(表 3) は『レジャー白書』による競技人口・参加率・参加希望率を記したものである。ここで言う参加率とは「1 年間に 1 度以上バレーボールを行った人の割合」である。競技人口の拡大につながる目安と考えて、10 代(学生)の参加率を加えた。ラリーポイント制への変更が行われたのは、1998 年から 1999 年にかけてである。その移行期間をはさむ 2 年間ずつを記してみたが、参加率におもだった変化は見られない。そして競技人口に関してだが、高体連によると男子バレーの高校生競技人口は 12 年前に比べて 32% 減ということである。実際、『レジャー白書』の「余暇活動参加人口の推移」によれば、1992 年の参加人口が 1210 万人なのに対し、2000 年には 800 万人にまで減少している。もっとも、これはバレーボールに限ったことではなく、スポーツ全体の参加人口自体が減少傾向にあり、ここ数年は横ばい傾向が続いている。その一方で、一人あたりの年間平均活動回数は増加している。これも、スポーツ全体にいえることである。

表 3)

バレーボール競技人口・参加率

年度	1997	1998	1999	2000
活動人口(万人)	740	820	770	800
参加率(%)	6.9	7.6	7.1	7.4
男性参加率(%)	7.2	8.6	7.2	6.5
10 代男性参加率(%)	35.8	37.4	40.3	41.9
女性参加率(%)	9.7	9.4	8.3	8.2
10 代女性参加率(%)	46.1	42.2	42.8	49.3
参加希望率(%)	4.9	6.3	5.8	4.7
年間平均活動回数	21.6	22.4	24.7	24.8

今回の調査にあたり、(財)日本バレー協会にメールで問い合わせをしたところ、次のようなメールをいただいた。上記の文章の繰り返しとなる部分もあるが、私たちの出した結論を裏付けるものであると考えるので、ここに掲載する。

ラリーポイント制導入の主な目的は試合時間の短縮(均一化)を図ることにあります。従来のポイントシステム(サイドアウト制)ですと、フルセットの長い試合では3時間、ストレートの短い試合の場合は1時間弱と、試合時間に大きなばらつきがありました。この弊害は

選手のコンディショニングに悪影響を及ぼし、ベストパフォーマンスが困難であるばかりでなく、ケガの原因にもなりかねない。

1日に2試合、3試合ある場合、第2試合以降の開始時刻や、最終試合の終了時刻を想定しにくい。これは観客にとって不便だけでなく、出場選手や大会運営側にとっても非常に不便である。

テレビ放映時間枠を設定しにくく、テレビ放映全体の縮小につながりかねない。

等々があります。については、生中継が主体の諸外国と違って日本の場合はほとんどが録画編集による放映ですので、時間的にはあまり影響がないと思われます。ラリーポイント制の導入は、一概にマスコミとファンのためだけとは言いきれないでしょう。

これまで会場で観戦していただいたファンの方には、分かりやすくなった、展開がスピーディになった、と、ラリーポイント制に対して概ね好印象を持っていただいております。実際にプレーする選手もラリーポイント制にすっかり馴染んでいます。これによって新たなバレーボールファンを獲得できたとは認識していませんが、実際問題として試合時間は短縮化(均一化)しており、上記の弊害がかなり改善されました。凝縮された時間の中で、より中身の濃い試合展開を期待できると考えます。

4. 結論

ルールをわかりやすくし、初心者も見やすくすることでバレー人気を回復するためのルール改正であったが、実際は若干の視聴率アップをしたものの、競技人口の拡大を図るという目的に関しては、全く効果が見られなかった。このことは、上記のメール文中の「これによって新たなバレーボールファンを獲得できたとは認識していませんが」という一文からも伺い知ることができるのではないだろうか。

とはいえ、私はこの一連のバレーボール協会の行動を頭から否定するつもりは無い。少子化が進み、新たな参加者層の獲得が必須となる中で、バレーボールの生き残りのために他の団体に先駆けて動いたことは評価されてよいのではないか。しかし、一方であまりにメディア寄りの、メディアの言いなりになっているという印象もぬぐいきれない。ルール変更時の国際バレーボール連盟（FIVB）の説明は、「現代はパワーやスピード感のある競技でないでと人気が集まらなくなっている。バレーも変わっていかなくてはならない」であった。スポーツが進化して行くこと自体は問題ではない。しかし、進化するきっかけがスポーツの主体となる選手から持ち上がったものではなく、バレーボールを商品として意識しすぎている団体の中から出てきたことは賞賛すべき事ではない。今回の改変により、見る側にとっての意識の変化（劇的な逆転が起こらなくなる、スポーツとしての質が変わってしまった等）を強いること、早く終わりすぎる、早い段階でゲームの予想、といったデメリットがある反面、それを凌駕するといってもよいメリットがあることを、今回の調査によって知ることができた。にもかかわらず、多くの論議を巻き起こした背景には、このような協会の体質に対する批判があるのではないだろうか。今回言及できなかったが、人気アイドルグループをマスコットキャラクターとして大会のたびに起用することに対する批判があることも事実である。

このようにラリーポイント制になったバレーボールであるが、今までとは全く違ったスポーツとしてとらえるのもいいのかもしれない。もともと、1895年にバレーボールがアメリカのYMCAでW.G.モーガンによって発明された時には、ラリーポイントに近い形式であり(野球のようなイニング制で、ラリー中にネットにあたると相手の得点)、その後も15~20分ハーフ制(時間内の得点で競う)、改変前の15点制を経て、現行のルールにたどり着いている。イニング制・時間制のバレーボールは私たちには想像もつかないが、バレーボールが世界に普及していく間には、様々なルールがあり、それぞれの楽しみ方があったのである。これまでの華麗な逆転劇や手に汗握るサーブ権の奪い合いに注目する見方を変えて、ひとつのミスが命取りになり、一本一本の重要度の増したラリーや、接戦が増えてより白熱した試合、起こりやすくなった番狂わせを楽しむという見方をしてはどうだろうか。

参考資料

バレーボール世界大会視聴率

<男子>

大会名	対戦国	放送日	放送開始時刻	放映時間	視聴率	
2001年グラチャン	アルゼンチン	11月20日	19:58	86分	17.3%	
	ユーゴスラビア	11月21日	19:58	86分	16.3%	
	韓国	11月23日	19:58	86分	13.9%	
	ブラジル	11月25日	19:58	86分	13.3%	
1999年ワールドカップ	カナダ	11月18日	19:03	141分	18.2%	
	韓国	11月19日	19:03	131分	14.8%	
	アルゼンチン	11月20日	19:03	136分	15.4%	
	スペイン	11月22日	19:03	141分	18.7%	
	キューバ	11月23日	19:03	111分	13.6%	
	アメリカ	11月26日	19:03	126分	15.3%	
	中国	11月27日	19:03	116分	16.1%	
	チュニジア	11月28日	19:03	141分	16.4%	
	イタリア	11月30日	19:03	111分	13.5%	
	ロシア	12月1日	19:03	111分	16.4%	
	ブラジル	12月2日	19:03	131分	17.2%	
	1998年世界選手権	スペイン	11月13日	19:04	130分	14.4%
エジプト		11月14日	19:04	110分	13.6%	
韓国		11月15日	19:04	110分	16.6%	
アルゼンチン		11月18日	19:04	120分	15.8%	
スペイン		11月19日	19:04	130分	16.8%	
ブラジル		11月21日	19:04	130分	16.9%	
キューバ		11月22日	19:04	170分	16.1%	
韓国		11月24日	19:04	130分	17.0%	
カナダ		11月25日	19:04	110分	15.0%	
ブルガリア		11月26日	19:04	130分	17.2%	
準決勝		ブラジル×イタリア	11月28日	19:04	130分	7.7%
準決勝		キューバ×ユーゴ				
決勝		イタリア×ユーゴ	11月29日	19:04	120分	9.0%

1994年世界選手権	ブルガリア	9月29日	0:55	89分	1.7%
(開催国：ギリシア)	中国	9月30日	0:55	90分	4.0%
	イタリア	10月1日	0:55	150分	1.8%
決勝	イタリア×オランダ	10月9日	0:55	90分	2.3%

<女子>

2001年グラチャン	対戦国	放送日	放送開始時刻	放映時間	視聴率
	ブラジル	11月13日	19:58	86分	19.1%
	韓国	11月14日	19:58	86分	19.1%
	中国	11月16日	19:58	86分	17.6%
	アメリカ	11月18日	19:58	86分	18.6%
1999年ワールドカップ	アルゼンチン	11月2日	19:03	131分	11.2%
	アメリカ	11月3日	19:03	141分	14.2%
	韓国	11月4日	19:03	111分	17.1%
	イタリア	11月6日	21:20	104分	20.0%
	ロシア	11月7日	19:03	126分	18.4%
	クロアチア	11月10日	19:03	141分	18.5%
	ペルー	11月11日	19:03	111分	19.1%
	チュニジア	11月12日	19:03	111分	16.5%
	キューバ	11月14日	19:03	111分	17.0%
	中国	11月15日	19:03	111分	19.0%
	ブラジル	11月16日	19:03	111分	17.0%
1998年世界選手権	ペルー	11月3日	19:04	110分	14.8%
	ケニア	11月4日	19:04	110分	13.7%
	オランダ	11月5日	19:04	110分	18.7%
	ロシア	11月7日	19:04	110分	17.3%
	ブラジル	11月8日	19:04	110分	15.5%
	ドミニカ共和国	11月9日	19:04	110分	14.3%
	クロアチア	11月11日	19:04	110分	13.6%
	オランダ	11月12日	19:04	110分	11.8%
準決勝	キューバ×中国				

1994 年世界選手権	チェコ	10 月 21 日	0:45	90 分	3.2%
	ケニア	10 月 22 日	0:55	90 分	1.7%
	アメリカ	10 月 23 日	0:20	110 分	4.4%
決勝	キューバ×ブラジル	10 月 30 日	2:45	105 分	1.7%

参考文献・サイト

レジャー白書 1997~2001 (財)余暇開発センター

財団法人日本バレーボール協会

<http://www.jva.or.jp>

Volleyball Guide

<http://www.volleyball.gr.jp/rpoint.htm>

メールマガジン MERMA

<http://www.melma.com/mag/92/m00003292/a00000003.html>

<http://www.melma.com/mag/92/m00003292/a000000038.html>

宇都宮大学 卒業論文

<http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/.%5C1999sotsuron%5Ckaori.html>

All About Japan [バレーボール]

スポーツの栄光

http://www.sakuranet.or.jp/~h_matsui/index.htm

<http://www.lifeserver.co.jp/volley/>

Video Research Ltd.
